

令和6年度

教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	38	学校名	八百津高等学校
------	----	-----	---------

学校教育目標 (教育方針)	2 1 世紀の社会を担うのに必要な、自律の精神、実践を伴う行動力、創造性豊かな人間性の育成	
3 つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・ 自律：自分の可能性を見つけ、目標に向かって継続的に努力することで自己肯定感を醸成し、自らの意志で適切な判断や行動ができる生徒 ・ 実践：自分を信じ、困難を恐れないで校内外の様々な教育活動に積極的に挑戦・努力し、3 年間の高校生活で「健やかな体」と「確かな学力」を培い、卒業時には「自分を変えることができ た」と実感できる生徒 ・ 創造：自分の挑戦と努力で培った力を、さらにいろいろな人と共に高め合い、認め合いながら、力を合わせて社会の一員として社会に貢献し、ふるさとを愛しふるさとの未来のために自らの 夢を創造できる「地域社会人」となり得る生徒
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・ 多様な進路志望に応えられるカリキュラムの編成と体系的なキャリア教育を推進するとともに、「連携型中高一貫教育」や「デュアル・システム『企業実習』」を始めとする地域と連携した 学びを通した体験と実践を伴う探究的な学びの推進 ・ 学び直しや学びを高めるための習熟度別授業や少人数授業を多く開講し、小規模校だからこそできる個々の生徒に寄り添ったきめ細かな支援の実施 ・ I C T機器を活用し、理解しやすい効果的な授業を展開するとともに、主体的・協働的・探究的な学びを通したコミュニケーション能力と発信力の育成
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・ 基本的生活習慣が身についており、高校に入っても社会や学校のルールを守って落ち着いた生活を送ることができる生徒 ・ 中学校での学びを基礎からもう一度学び直そうという気持ちが強く、入学後も継続的に学び続けるとともに、部活動、生徒会活動やボランティア活動に積極的に参加しリーダーシップを発揮 することで「自分を変えよう」という向上心が強い生徒 ・ 地域社会が有する諸課題に対して興味を持ち、仲間とともに様々な活動を通して地域の活性化に貢献することを志す生徒
学校の抱える課題	【学習支援】基礎学力の定着及びさらなる主体的な学習態度の育成が課題である。 【生徒支援】高校生としてのマナーや社会規範を守る意識が希薄な生徒に対しての指導方法が課題である。 【進路支援】進学も就職も受け身の生徒が増えている現状を踏まえ、どこまで意識を持たせることができ個別支援できるかが課題である。 【デュアルシステム】実習に向かう生徒の意識にバラつきがあり、学校での指導の中で実習に対する連帯感を高めることが課題である。 【連携型中高一貫教育】本校への志望者数は微増にとどまっている現状をいかに増加にするかが課題である。	
教育指導の重点	領域・分野	今 年 度 の 具 体 的 な 重 点 目 標
	学校経営	コミュニティースクールとして地域と連携した教育の充実
	学習指導	基礎学力の定着及び主体的な学習態度の育成
	生徒指導	基本的生活習慣の確立を目指す
	進路指導	進路希望実現のための支援の充実

年 度 目 標					年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域 分野	3 つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画で の位置付け		達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	連携型中高一貫教育の活性化、全職員が6年間を見通した指導を図るとともに、地域の教育力を生かした学習活動を展開します。	4	施策Ⅰ-4	中高連携校長会議及びコーディネーター会議での反省、学校評価アンケート	・学校評価アンケート「学校は、地元中学との中高一貫教育を通して、地域に貢献する人材を育成し、町の活性化に寄与している」との質問に対し肯定的評価は生徒77％（72％前年）、保護者77％（74％前年）である。否定的評価は生徒5％（7％前年）、保護者2％（3％前年）であり、連携した学校間の交流事業がほぼ予定通り実施できたことで、昨年度より上昇したと考えられる。	B	・八百津中学校との交流授業、チャレンジテストファイルの確認や夏の実力養成講座、一日体験入学、カヌー体験（八百津東部中）、出前授業（八百津東部中）など連携2 中学との行事の多くが予定通り実施でき中高連携の効果がみられた。また連携中学校からの出身生徒が減少していることが今度の課題である。	B
	教職員の働き方改革の実践、管理職が職場の意識改革に努めます。	27	施策Ⅳ-27		・ストレスチェックでの状況把握、学校行事等、時間外労働時間について、勤務時間割振変更簿により振り替えている。		・教職員の長時間勤務、多忙化解消に向けて「教職員の働き方改革プラン」に基づき、業務内容を絶えず見直していきたい。	
	教職員の資質向上、研修主事を中心とした校内研修の充実を図っていきたい。	26	施策Ⅳ-26		・各行事ごとにおける生徒・職員アンケートと、授業評価アンケートを実施した。		・各行事ごとにアンケートをとることにより改善点が明確になり来年度の内容を精査することができる。また引き続き授業評価アンケートにより職員の授業改善、資質向上に役立てていきたい。	

学習指導	生徒の実態に合った授業、互いに認め合う活動を通してコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、自己肯定感や自己有用感をはぐくみながら、生徒自らが学ぶ姿勢を身につけられるように努めます。	1	施策Ⅰ-1	生徒による授業評価	・年2回授業に関する評価を行い生徒が自分の日頃の授業や学習に対する姿勢を評価し不十分な点を反省し改善していく。また職員は授業改善に役立てる。 ・公開授業週間における参観者評価。 ・「郷土の地理と歴史」に係る地域巡検、ホロコーストと杉原千畝に関する特別講義、社会人講座等を実施し考える力を育成できた。	B	・公開授業を実施し、教職員の学び合い文化の醸成、協働的な職場環境づくりが、学校に根付いていくように校内研修の活性化を推進していきたい。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るために、指導改善の方法やICTの効果的な活用等の取組の充実を図っていきたい。 ・今後はSDGsを理解し自分事として捉えるために、地域、企業・団体等と連携しながら発達段階に応じたSDGsを学ぶ機会を考えていきたい。	B
	学習効果を高める指導法の研究、生徒の実態に合った授業を目指し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実のため、授業公開週間を設け、授業計画や内容・指導方法について、教員間による授業研究を通して改善に努めます。	8	施策Ⅱ-8	公開授業週間における参観者評価				
	関係機関と連携し、総合的な探究の時間の充実やふるさと教育の推進によって課題解決のために必要な判断力や行動力等を育成していきたい。	12	施策Ⅱ-12	学校運営協議会等の評価				
生徒指導	全体指導、個人指導を通して基本的な生活習慣、望ましい生活態度を確立する支援を行い性的マイノリティに関する偏見や差別の解消、DV 根絶などを図るため家庭と連携します。	2	施策Ⅰ-2	学校評価アンケート	・学校評価アンケート「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」肯定的評価88%（81%前年）、保護者も88%（84%前年）否定的評価は生徒7%（7%前年）、保護者6%（9%前年）である。 ・学校評価アンケート「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している」生徒、肯定的評価79%（74%前年）、保護者73%（70%前年）否定的評価8%（12%前年）、保護者6%（7%前年）である。 ・学校評価アンケート生徒からは「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」肯定的評価90%（87%前年）、否定的評価5%（5%前年）保護者からは「学校を訪問したり、電話したりした時の教職員の対応（挨拶や話し方）が適切である」93%（99%前年）否定的評価3%（1%前年）である。	B	・グローバル化や社会構造の変化による価値観の多様性を正しく理解し性的マイノリティに関する偏見や差別の解消、DV根絶などを図るため教職員の人権感覚を高めていきたい。 ・スクールカウンセラーやスクール相談員等の専門家を活用し、いじめの未然防止や不登校の支援に向け、安心できる学校環境、雰囲気づくりを推進していきたい。 ・引き続き子供たちの成長に貢献するため家庭との連絡を密とした支援をしていきたい。	B
	生徒理解に努め、生徒に寄り添った支援を行い、いじめの未然防止や不登校の支援に向け。安心できる学校環境、雰囲気づくりを推進するとともにスクールカウンセラーやスクール相談員等の専門家を活用した教育相談のさらなる充実を図り、組織対応を強化します。	3	施策Ⅰ-3	いじめアンケート、こころのアンケート、学校評価アンケート				
	家庭と学校とが一体となった生徒支援に努めるため5月の保護者懇談、夏と冬の三者懇談だけでなく日頃から家庭との連絡を密とした支援を行い、青少年が巻き込まれる犯罪をはじめ複雑化する様々なトラブルに対応するため、啓発強化を行い、学校運営協議会と地域と学校とが連携した子どもたちの育成を図ります。	7	施策Ⅰ-7	学校運営協議会の評価、学校評価アンケート				

進路指導	進学支援（補習・個別指導）と就職支援（求人確保・社会人教育等）わかりやすいガイダンスを実施し、広い視野を持って進路決定をする意識を高めます。また経済的な理由等により就学が困難な生徒等に対する各種奨学金の貸付等についても丁寧に説明をしていきます。	23	施策Ⅳ-23	学校評価アンケート 外部模試・進路先の結果	・学校評価アンケート生徒からは「本校では、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」肯定的評価88% (84%前年)、否定的評価4 % (3%前年)、保護者からは「学校は進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」肯定的評価92% (89%前年)、否定的評価は1% (1%前年) である。 ・学校評価アンケート「本校では、生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」肯定的評価86% (84%前年)、否定的評価3% (3%前年)、保護者からは「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている」肯定的評価91% (88%前年)、肯定的評価2% (3%前年) である。 ・地域創生キャリアプランナーを活用した求人の活動、生徒への進路支援が個別によくできた。キャリアプランナーへの生徒や企業の信頼は厚かった。	B	・経済的な理由等により就学が困難な生徒等に対する各種奨学金の貸付等についても丁寧に説明をして誰一人取り残さない学びの機会を整備していきたい。 ・生徒が自己の適性や可能性を理解し、働くことの意義や学校の学習と将来の生活とのつながりを実感できるよう、今後もあK艇や地域、産業界、関係機関等と連携していきたい。 ・生徒の進路意識を高めるため、ガイダンスを計画的に実施していきたい。特に外部の方に来ていただいたり、先輩の話を聞いたりする形式を今後も引き続き実施していきたい。	B
	キャリア教育の充実のため、個別のキャリアファイルを活用し、自己実現に向けた個別の努力・足跡を蓄積することでキャリア意識が高められるように努め、本校でのデュアルシステムの充実、地域企業での継続した就業体験活動や実践的な活動により社会的・職業的自立をめざします。	13	施策Ⅱ-13					
	進路実現に向け、将来を見据えた魅力ある学校づくりの推進として一層の特色化・魅力化を図るための方向性を検討します。	20	施策Ⅳ-20					

来年度に向けての改善方策等	実施日：令和7年2月20日	学校関係者評価	実施日：令和7年2月20日
・授業公開週間に実施する生徒による授業アンケート（6月・11月）を参考に、より分かりやすい授業が実施できるように工夫する。 ・学習内容の定着が遅い生徒に対しては、特に個人指導をきめ細かく実施する「寄り添い指導」をさらに続ける。 ・進学希望者の学力を伸ばすため関係職員連絡会を定期的に設け、家庭学習時間の確保とその充実を図る。 ・全校集会や学年集会等で高校生としてのマナーやルールを守る目的や意義を明確に伝えたことを日常の生活の中で指導徹底するために、あいさつ指導、身だしなみ指導、授業態度評価指導を生徒との対話を重視して行い、取組みの経過および結果等について学校全体で共有しながら進めていく。 ・MS L活動や生徒会行事を活性化させていくことにより積極的な生徒支援につなげていく。 ・電子化した求人票を活用し、早期から企業を調べる習慣を身につけさせ、企業と生徒のミスマッチを防ぐ。 ・進路情報を、HP等を用いて積極的に発信し、八百津高校の魅力を中学生に伝える努力が必要である。 ・外部模試を積極的に受験させ、全国における自分の学力を認識し、学習に向かわせる。		・企業実習（デュアルシステム）に熱心に取り組んでいる様子が印象的であり「自ら考えて行動する」という言葉が印象的でした。 ・アンケート結果から、家庭との連携が上位にあり、生徒は「本校に入学できてよかったと思っている」91%、保護者も「お子様はよこんで学校に行っている」87%から、学校生活に満足感を持って通学している生徒、またそのようにとらえている保護者の方が特に多いことを示している。 今後も引き続き、生徒が明日も来なくなる学校、保護者が明日も行かせたい学校となるよう魅力（習熟度別授業等）ある学校づくりを推進してください。	